

臨床化学研修会報告書
生涯教育研修会報告書
学発番号 第 12-007 号

平成 24 年 5 月 29 日報告
報告者：下川原 えり
所属：京都南病院
連絡先： 075-312-7361

主題：臨床検査分野 研修会

主題 1：リウマチに関する検査について

講師 1：積水メディカル株式会社カスタマーサポートセンター学術西日本グループ 金田 幸枝氏

主題 2：リウマチの治療戦略と臨床検査

講師 2：神戸大学大学院保健学リハビリテーション科学領域

神戸大学大学院医学研究科整形外科 三浦 靖史氏

日時：平成 24 年 5 月 29 日（火） 18:30～20:30

場所：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室

分類：臨床化学部門 4 検体検査 52 20 点

全体参加人数：48 人

京臨技会員参加人数：31 人

他府県会員参加人数：5 人

学生参加者：0 人

仮会員参加人数：0 人

非会員参加人数：17 人

以下、講演内容など

- ① 最近早期 RA における滑膜増殖と関節破壊の予後予測マーカーとして有用とされる MMP-3 (マトリックスメタロプロテインゼン-3) が汎用自動分析装置で測定可能になった。今回は MMP-3 検査を中心に RA に関わる検査について。

抗 CCP 抗体 (抗環状シトルニン化ペプチド抗体) の RA に対する感度、特異性について、また関節破壊の予後因子、RA の活動性を示すマーカーとして MMP-3 を、病態把握・治療効果判定への有用性を他のマーカー・非 RA 疾患との比較を示しながら紹介いただいた。また関節リウマチ治療におけるメトトレキサート診療ガイドライン、検査項目の保険適用上の注意事項についても解りやすく解説いただいた。

② RA の最新治療戦略と臨床検査の関わりについて

メトトレキサートをアンカードラッグとした早期からの積極的薬剤療法が今日の標準的な RA 治療法である。抗リウマチ生物学的製剤の登場が RA の薬剤療法だけでなく疾患概念、診断基準、治療体系、治療目標、さらには患者のライフスタイルまで一変させる。今回、薬剤療法の変遷、疫学、病態、新分類基準から治療目標、治療手順、生物学的製剤の比較・使い分けなど、動画や多くの画像も用意いただき、また臨床検査においては抗 CCP 抗体、疾患活動性マーカー MMP-3、間質性肺炎マーカー KL-6 などが診療現場で重要性を増していること、コメディカルのかかわりなどについて講演いただいた。

講演の時間が充分ではなく残念だったが、「治らない病気から治る病気・進行を抑えられる病気になった現在、発症の原因に迫る研究が足踏みをしている、受診のタイミングは、たとえそれが除外診断となるにしても早い段階を薦める、発症後 2 年間に骨破壊が最も進行する、コントロール不良の場合低下した ADL の回復は望めない、早期診断・早期の治療開始が必須だがそれでも関節へのいたわりが必要」……寛解達成を目指す診療現場の直の言葉が印象に残った。